――長崎市立高城台小学校　学校だより――――――――――――――――――――――――――――

よいや～の風にのって

学校だより
の以前の号
はこちら←

――――――――――――――――令和7年12月4日（木）№21―校長　東原　宏章――――――――――

「受援力は“弱さ”ではなく“強さ・しなやかさ”だから」

今年度の学校目標の中に、令和７年度の学校経営のキーワードとして、

「●助けてと言えるか（受援力）　●大切にされているか（自己肯定感）
●学びに向かっているか（主体的な態度）」

を設定しました。５月上旬のことです。

上記のキーワードは高城台小に赴任するまでの複数校での経験と、４月の１か月間で私なりに把握した本校の児童の実態をもとに設定したものです。

今回の学校だよりでは、上記の3つのキーワードの中から「受援力」についてお話しします。

「受援力」という言葉をキーワードの一つとして設定した理由は、私が出会った子どもたちの中には「助けてください。」と言えていたら、不安や悩みを抱え込まずに前へ進めたのではないかと思われる子どもがいたからです。また、本校の子どもたちの中にも受援力を必要としている子どもがいるのではないかと思ったからです。

【受援力とは】

「受援力」とは、簡単にいうと素直に「助けてください。」と言える力のことです。

「受援力」という言葉の語源を明らかにすることはできませんでしたが、日本では2000年以降に使わるようになったようです。福祉・医療・災害復興・地域支援などの分野で使われてきました。広まったのは東日本大震災がきっかけのようです。その後、教育・福祉の世界で転用され、子ども支援のキーワードの一つになっています。

【なぜ「受援力」が必要なのか】

（1）一人でできることは限られているから

学校生活では、自分だけでは解決できない場面があります。そんなときに、素直に「助けてください」と言える力は、問題を安全に、確実に解決するために必要です。

（2）他者とつながり、安心して学べる環境ができるから

受援力がある子どもは、

〇つまずいたときに相談できる

〇心の負担をため込みにくい

〇友達や先生との関係が安定する

その結果として、安心感のある学級づくりにもつながります。

（3）試行錯誤する経験が学びを深めるから

助けを求めることで、

〇新しい考え方に触れる

〇自分では気づかない改善点がわかる

〇次に同じ場面が来ても対処しやすくなる

つまり成長のチャンスになります。

（4）社会において「助け合い」が価値が高まるから

現代社会は、

〇多様な人が共に働く

〇チームで課題解決する

「自分だけで頑張る」よりも、協力し合う力が重視される時代になっています。

（5）受援力は“弱さ”ではなく“強さ・しなやかさ”だから

助けてと言えることは、「できない自分を認める」のではなく、課題を客観視できる強さ・しなやかさをもつことにつながります。つまり、「困ったときに SOS を出せる力」を育てることは、子どもの安心感の増大と成長にもつながります。

これまで全校集会などで、子どもたちには「助けてと言えているか、友達の SOS を受け止めているか」と問いかけてきました。2 学期末に近づいてきましたが、

〇些細なことであっても、不安や悩みを担任に相談する子ども

〇困っている友達がいたら、担任に教えてくれる子ども

が増えてきました。大変嬉しいことです。子どもたちを後押ししてくださっている保護者の皆様に感謝申し上げます。